

水のありがたさ

大口明光学園中学校 三年 西<sup>にし</sup> あかね

今日一日、私一人でどれくらいの水を使っ  
たんだろうと考えてみました。朝起きて顔を  
洗う水、みそ汁に使った水、歯を磨くときの  
水、体育の授業の後、汗だくで飲むおいしい  
水、トイレで流した水、お風呂のために使っ  
た水……。一人でこんなにもたくさんの水を  
知らず知らずに使っているということに驚き  
です。また、蛇口をひねれば必ず水が出ると  
いう生活が「当たり前」に定着しています。  
よく、社会や家庭科の教科書には、汚い水  
しか飲めずに早く亡くなる子どものことが書  
いてあります。それは、写真付きの時もあり、  
病気のためにお腹が大きくなった黒い肌をし  
た小さな子どもがこちらを向いています。水  
に不自由することのない私は、正直に言う  
とこれが同じ地球上で起きている現状だと考  
えにくいです。何とかしたい、この子どもに  
も安全でおいしい水を飲ませてあげたい、と

は思いますが、その一方で心の奥底では日本に生まれていて良かった、こんな辛い思いをしなくて良かったと安心していることも確かです。私は、この考え方を見直したいと思います。まず。毎日、安全でおいしい水を飲めることをもっともつと感謝すべきだと思います。こんなにきれいな水をありがたうと思うこと、まずはこれからです。

私の通っている学校は中校一貫で、中高一年生は二階、中高二年生は三階、中高三年生は四階に教室があります。階ごとに一カ所ずつ冷水機があるので、これに関して考えたことがあります。

昨年、中学二年生だった私は三階で勉強していたのですが、一学期の中頃から三階の冷水機が使えなくなりました。ボタンを押しても水が出ず、不便な思いをしました。それから私が進級するまで壊れたままだったので、あの頃はちょうど夏真っ盛りで、暑さが和らぐ九月ごろまで私たちは二階の冷水機ま

で水を飲みに行っていました。クラスメイトの間では、こんなに暑いのにすぐ近くに水がなくて困る、二階まで行くのは面倒だという声がたくさん聞かれました。私も授業の間ごとに十分しかない休み時間に二階まで降りるのには大変な思いをしました。

夏の暑い日、日本では水分補給が熱中症予防に効果的な方法と教えられています。夏にはたくさん水を飲むのが当たり前の私たちは冷水機が壊れただけで不便な思いをしました。でも世界ではどうでしょう。冷水機どころかペットボトルさえもない国だってあるはずですよ。安全な水を飲めない子どもたちが何時間も長くて険しい道を歩いているのが頭に浮かびます。いつか、テレビでそんな映像を見ました。その子は家からはとても遠いその場所へ、毎日水をくみに来るのです。そして、細い腕で水の入った重たいバケツを運び、来た道をまた戻っていきます……。それに比べたら、と私は自分の豊かすぎる生活を見直し

ます。なんて贅沢、とその子は思うでしょう。でも私にはその豊かな生活が当たり前で、その子には毎日水くみのために辛い思いをする生活が当たり前なのです。

いつも当然のように使っている水も、視点を換えれば貴重な一滴です。私が生きていられるのはある部分水があるからこそです。言い換えれば、きれいな水が手に入らずに生きてたくても生きることができない子どもたちがたくさんいます。

そんな子どもたちに私が代わることはできませんが、彼らのことを考えることはできます。こんなにきれいで安全でおいしい水を使える環境にいる私たちはもっと水のありがたさを知り、そして「節水」を実行しなければなりません。普段よく聞かれる言葉ですが、これにはたくさんの方の大切な命がかかっています。コップ一杯分でも、私が手助けできたらと思っています。